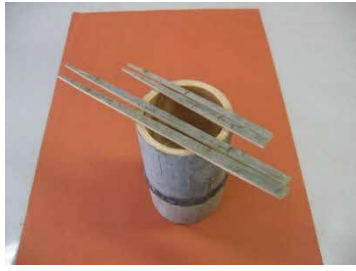


Ⅲ 創作活動


- 1 竹ばし
- 2 フンフンごま（竹）
- 3 フンフンごま（木）
- 4 ペンダント
- 5 目玉っちキーホルダー
- 6 どんぐり松ぼっくり工作
- 7 森の写真立て
- 8 ストーンアート
- 9 オリジナル缶バッジ
- 10 葉っぱでスタンプエコバッグ




【創作活動】

活動名						竹ばし											
概要		○竹の特徴を生かしながら、竹ばしを創作する。															
ねらい		○竹の特徴を理解し、それを生かしながら創作する。 ○道具の特徴や使い方を理解し、正しく安全に取り扱う。 ○楽しく活動し、創作の喜びを味わう。															
関連教科等		図画工作・家庭・総合															
指導形態		①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行う															
時期		通年		時間帯		日中		対象		高学年～							
場所		創作棟		人数		～80人／1部屋		所要時間		1～2時間							
準備物						施設で準備できるもの						団体・個人で準備するもの					
材料、のこぎり、ナタ、小刀、サンドペーパー、木づち、プロッキー、定規						なし											
進め方・展開例																	
内容						留意点											
活動前		○打合せを行う。 ○ねらい、活動の進め方				○職員の指導が活動の説明のみの場合は、説明後の進め方、片付け方を確認する。											
活動の説明		○竹の特徴や道具の取り扱い方を説明する。 ○作り方を説明する。				○刃物の取り扱いに十分注意させる。 ○小刀は、使うときだけ鞘から出し、自分の肩幅内で操作することを伝える。また、脇をしめて扱うよう指導する。 ○創作説明用のシートを使用する。											
展開		①班で協力して、竹を切る。 ②班の人数分のはしができるように、ナタで竹を割る。 ③小刀で竹を削って、はしの形をつくる。 ④サンドペーパーで磨いて完成。 ⑤片づけをする。				○役割分担をし、交代しながら竹を切る。											
まとめ		○活動をふりかえり、よかったことや楽しかったことなどを発表し合う。															
評価		○竹の特徴を理解することができたか。 ○道具の特徴を理解し、正しい使い方を習得することができたか。 ○楽しみながら作品づくりに取り組むことができたか。															
発展		○炊飯活動等と組み合わせることで、より一層つくる喜びは増すと考えられる。															


活動名						ブンブンごま(竹)											
概要		○竹の特徴を生かして、ブンブンごまを創作する。															
ねらい		○竹の特徴を理解し、それを生かしながら創作する。 ○道具の特徴や使い方を理解し、正しく安全に取り扱う。 ○できあがった作品で遊ぶことで、創作の喜びを味わう。															
関連教科等		図画工作・理科・総合															
指導形態		①自主活動で実施, ②職員は活動の説明のみ行う, ③職員が指導を行う				時期		通年		時間帯		日中		対象		高学年～	
場所		創作棟		人数		～80人/1部屋		所要時間		1～2時間							
準備物						施設で準備できるもの						団体・個人で準備するもの					
材料, のこぎり, きり, 定規, 鉛筆 はさみ, サンドペーパー, たこ糸, 竹ひご						なし											
進め方・展開例																	
内容									留意点								
活動前		○打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数, 材料の数, 活動の進め方						○職員からの指導が活動の説明のみの場合は, 活動の進め方や安全面, 片づけ等について十分確認する。									
活動の説明		○竹の特徴や道具の取り扱い方を説明する。 ○作り方を説明する。						○創作説明用のシートを使用する。									
展開		①ものさしと鉛筆を使って, 竹にしるしをつける。 ②きりで4カ所穴をあける。 ③のこぎりで切る ④サンドペーパーでそれぞれの角を削る。 ⑤水系を通し, 結ぶ。 ⑥仕上がった作品で遊ぶ。 ⑦後片づけをする。						○竹に穴をあけたり, 切ったりする際には, 机の段差に竹を固定して作業を行うとやりやすい。 ○きりの先端が完全に突き抜けるまで穴をあけるようにする。 ○水系は, 折り返した長さが自分の肩幅程度になるようにする。 ○うまくごまが回らない場合は, ごまの部分进行调整したり, 回し方のコツを伝えたりする。									
まとめ		○活動をふりかえり, よかったことや楽しかったことなどを発表し合う。															
評価		○竹の特徴を理解することができたか。 ○道具の特徴を理解し, 正しい使い方を習得することができたか。 ○楽しみながら作品づくりに取り組むことができたか。															
発展																	


活動名		ブンブンごま(木)			
概要	○木の匂いや形、手触りを楽しみながら、ブンブンごまを創作する。				
ねらい	○木の匂いや形、手触りを楽しみながら創作する。 ○道具の特徴や使い方を理解し、正しく安全に取り扱う。 ○できあがった作品で遊ぶことで、創作の喜びを味わう。				
関連教科等	生活科・図画工作・理科・総合				
指導形態	①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う				
時期	通年	時間帯	日中	対象	幼(大)～
場所	創作棟	人数	～100人/1部屋	所要時間	0.5～1時間
準備物	施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの		
	材料、はさみ、たこ糸、ポスターカラー、糸通し用ヘアピン		なし		
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数、材料の数、活動の進め方			○職員からの指導が活動の説明のみの場合は、活動の進め方や安全面、片づけ等について十分確認する。	
活動の説明	○木の特徴や道具の取り扱い方を説明する。 ○作り方を説明する。			○創作説明用のシートを使用する。	
展開	①木を選ぶ ②模様を描いたり、色を塗ったりする。 ③水系を通し、結ぶ ④仕上がった作品で遊ぶ ⑤後片付けをする。			○水系は、折り返した長さが自分の肩幅程度になるようにする。 ○うまくこまが回らない場合は、こまの部分进行调整したり、回し方のコツを伝えたりする。	
まとめ	○活動をふりかえり、よかったことや楽しかったことなどを発表し合う。				
評価	○道具の特徴を理解し、正しい使い方を習得することができたか。 ○楽しみながら作品づくりに取り組むことができたか。				
発展	○材料を竹にかえることもできる。				


活動名		ペンダント				
概要	○木の特徴を生かして、ペンダントをつくる。					
ねらい	○木工作への関心を高める。 ○材料である「ネズミサシ」の特性を知り、それを生かした工作をする。 ○手づくりの喜びを味わう。					
関連教科等	生活・図画工作・総合					
指導形態	①自主活動で実施, ②職員は活動の説明のみ行う, ③職員が指導を行う					
時期	通年	時間帯	日中	対象	幼児～	
場所	創作棟, 他	人数	何人でも	所要時間	0.5～1時間	
準備物	施設で準備できるもの			団体・個人で準備するもの		
	ペンダント用木材, スタンプ, サンドペーパー ひも, 名前ペン			なし		
進め方・展開例						
内容			留意点			
活動前	○打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数, 材料の数, 活動の進め方			○職員からの指導が活動の説明のみの場合は, 活動の進め方や安全面, 片づけ等について十分確認する。		
活動の説明	○木の特性について (場所によって成長に違いがある) (堅さに違いがある) (製品にする場合, どのような木が適しているか) (使う材料は「ネズミサシ」という木である) など ○作成手順について			○木造家屋であれば, 柱に使用してある材や床柱に使用してある材の特徴など, 参加者に投げかけながら話すと理解しやすい。 ○「ネズミサシ」は通称「ネズ」。自然の家の周辺には比較的多く, 成長に年数がかかる。それだけ木目が細かく堅いため, 艶も出ることに繋がると考えられる。 ○創作説明用のシートを使用する。		
展開	○材料を選ぶ。 ○サンドペーパーを配布する。 ○サンドペーパーで艶が出るまで磨く。 ○ひもを配布する。 ○結び方を紹介し, 首に掛けられるようにする。 固定(本結び等) 誘導(テグス結び)  			○材料は事前にカットしてあるので, 好きな形のものを選択させる。 ○素材のまま木目を生かした作品にしてもよいし, 入所記念のスタンプを押してもよい。 ○ひもは, 汗などでぬれると色が落ち, 肌や衣服に付着するので注意が必要。		
まとめ	○できばえを発表し合う。					
評価	○材料の特徴を理解し, それを生かそうとしたか。 ○楽しみながら作品づくりに取り組むことができたか。					
発展	○自然散策等の活動から引き続きの創作活動として活用することもできる。					


活動名						目玉っちキーホルダー											
概要		○木の枝にクラフト用の動く目玉をつけて、キーホルダーをつくる。															
ねらい		○自由な発想で、思い思いに作品づくりを行うことによって想像力を養う。 ○道具の特徴や使い方を理解し、正しく安全に取り扱う。 ○木肌をよく観察することで、樹木に対する興味関心を抱ききっかけをつくる。															
関連教科等		生活・図画工作・理科・総合															
指導形態		①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行う															
時期		通年		時間帯		日中		対象		幼(大)～							
場所		創作棟		人数		～120人/1部屋		所要時間		0.5～1時間							
準備物						施設で準備できるもの						団体・個人で準備するもの					
準備物						小枝、クラフト用の動く目玉、ヒートン ひも、木工用ボンド、押しピン ポスカ、ひご						なし					
進め方・展開例																	
内容						留意点											
活動前		○打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数、材料の数、活動の進め方				○職員からの指導が活動の説明のみの場合は、活動の進め方や安全面、片づけ等について十分確認する。											
活動の説明		○例となる作品を提示し、自分の自由な発想でキーホルダーをつくること ○木肌を観察して、顔の表情のように見える部分をさがすこと ○作成手順について				○例となる作品と同じものを作るのではなく、自分の自由な発想で作るように伝える。 ○どんな表情に見えるかを友達同士で確認させるとよい。 ○創作説明用のシートを使用する。											
展開		○小枝の木肌を観察して、どの部分に目玉をつけるか決める。 ○木工用ボンドで、小枝にクラフト用の動く目玉を付ける。 ○枝にヒートンを付ける。 ○ヒートンにひもを付ける。				○細かい作業なので、ピンセットを使うとよい。 ○ヒートンにひごを通して、回していくとよい。											
まとめ		○片づけをする。 ○お互いの作品について発表し合い、よさを認め合う。															
評価		○想像力をはたらかせて、思い思いの作品をつくることができたか。 ○道具の特徴を理解し、正しい使い方を習得することができたか。 ○木肌の表情を観察して、積極的に小枝を選ぶことができたか。															
発展		○色合いを考えて、マジック等を使って色を付けることもできる。															

活動名						どんぐり松ぼっくり工作											
概要		○どんぐりや松ぼっくりなどの自然物を使って、思い思いに作品をつくる。															
ねらい		○自由な発想で、思い思いに作品づくりを行うことによって想像力を養う。 ○道具の特徴や使い方を理解し、正しく安全に取り扱う。 ○よく観察することで、自然物に興味関心を抱くきっかけをつくる。															
関連教科等		生活・図画工作・理科・総合															
指導形態		①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行う															
時期		通年		時間帯		日中		対象		幼児～							
場所		創作棟		人数		～80人／1部屋		所要時間		1～2時間							
準備物						施設で準備できるもの						団体・個人で準備するもの					
						材料となる自然物、ホットボンド、ニッパー 木工用ボンド、のこぎり、はさみ、ポスカ						野外で自然物を採取して使用することも可能					
進め方・展開例																	
内容						留意点											
活動前		○打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数、材料の数、活動の進め方				○職員からの指導が活動の説明のみの場合は、活動の進め方や安全面、片づけ等について十分確認する。											
活動の説明		○例となる作品を見てイメージをつくる。 ○道具の使用方法を理解する。 ○作り方の流れを説明する。				○例となる作品と同じものを作るのではなく、自分の自由な発想で作るように伝える。 ○刃物やホットボンドの使用の注意事項を伝える。 ○創作説明用のシートを使用する。											
展開		○必要であれば、自然物を野外に取りに行く。 ○作品をつくる。 ・どんぐりや松ぼっくりのミニ人形 ・どんぐりゴマ ・どんぐりのやじろべえ ・松ぼっくりのモビール ・木で作るカブトムシとクワガタムシ 等				○危険な動植物への注意を促す。 (ハゼ、ウルシ、マムシ、スズメバチ等) ○刃物の取り扱いには十分注意させる。											
まとめ		○片づけをする。 ○お互いの作品で遊んだり、作品の発表をしたりして、お互いの作品のよさを認め合う。															
評価		○想像力をはたらかせて、思い思いの作品をつくることができたか。 ○道具の特徴を理解し、正しい使い方を習得することができたか。 ○身近な木の実や落ち葉等の自然物に、おもしろさや不思議さを感じる事ができたか。															
発展		○野外活動や自然観察の延長として、創作活動を取り入れてもよい。															

活動名					
森の写真立て					
概要	○木の実や落ち葉等の自然物を使って、自分だけの写真立てをつくる。				
ねらい	○自由な発想で、思い思いに作品づくりを行うことによって想像力を養う。 ○道具の特徴や使い方を理解し、正しく安全に取り扱う。 ○よく観察することで、自然物に興味関心を抱くきっかけをつくる。				
関連教科等	生活・図画工作・理科・総合				
指導形態	①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行う				
時期	通年	時間帯	日中	対象	幼児（親子）～
場所	創作棟	人数	～80人／1部屋	所要時間	1.5～2時間
準備物	施設で準備できるもの			団体・個人で準備するもの	
	土台となる木、木の実等の自然物、ニッパー、ダンボール、写真サイズの型紙、はさみ、鉛筆、ホットボンド、木工用ボンド、のこぎり、ポスカ			作品を入れる箱	
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数、材料の数、活動の進め方			○職員からの指導が活動の説明のみの場合は、活動の進め方や安全面、片づけ等について十分確認する。	
活動の説明	○例となる作品を見せ、動機づけをする。 ○活動の流れを説明する。 ○道具の使用方法を説明する。			○見本と同じものをつくるのではなく、自分の自由な発想でつくるように伝える。 ○創作説明用のシートを使用する。 ○特に刃物やホットボンドの使用の注意事項を伝える。	
展開	○必要であれば、自然物を野外に取りに行く。 ○土台となる木に、型紙がはさめるように木の実を接着する。 ○写真をはさめるように、写真の大きさに合わせて、ダンボールに飾り付けをする。			○危険な動植物への注意を促す。 (ハゼ、ウルシ、マムシ、スズメバチ等) ○自由な発想で作るよう促す。 ○あまり重いものを接着すると、バランスが取れずに倒れてしまうことを伝える。	
まとめ	○片づけをする。 ○お互いの作品を発表し合い、よさを認め合う。				
評価	○想像力をはたらかせて、思い思いの作品をつくることができたか。 ○道具の特徴を理解し、正しい使い方を習得することができたか。 ○身近な木の実や落ち葉等の自然物に、おもしろさや不思議さを感じる事ができたか。				
発展	○写真だけではなく、たたき染めやスケッチなどの作品を飾ってもよい。				

活動名		ストーンアート			
概要	○石を観察し、作品のイメージをわかせて、その石に絵の具で色をぬって、思い思いの作品をつくる。				
ねらい	○身近にある物で作品を作る喜びに気づく。 ○石の特徴から作品のイメージをわかせることで、創造力を養う。 ○アクリル絵の具の取り扱いを学ぶ。				
関連教科等	図画工作・理科・社会・総合				
指導形態	①自主活動で実施, ②職員は活動の説明のみ行う, ③職員が指導を行うことが可能				
時期	通年	時間帯	日中	対象	幼(大)～
場所	創作棟	人数	～120人/1部屋	所要時間	1.5～2時間
準備物	施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの		
	石, アクリル絵の具, 筆, はしペン, ティッシュ, 水入れ, 紙皿, ドライヤー, 新聞紙, 雑巾		汚れてもいい服(必要に応じて)		
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数, 材料の数, 活動の進め方		○職員からの指導が活動の説明のみの場合は, 活動の進め方や安全面, 片づけ等について十分確認する。		
活動の説明	○作成手順を理解する。 ○色のぬっていない石を見る。 ○例となる作品を見てイメージをつくる。		○色のぬっていない石が, どんなものに見えるかを創造させるとよい。		
展開	○手順に沿って, 作品をつくる。 ①石をよく観察して, 選ぶ。 ②使う道具を準備する。(新聞紙, 絵の具, 筆, 水入れ, 紙皿, ドライヤー等) ③絵の具を必要な量だけ出す。 ④石に色をぬっては乾かし, ぬっては乾かしを繰り返して, 作品をつくる。		○絵の具の出し過ぎに注意する。 ○アクリル絵の具は乾くと色が落ちないので, 衣服につかないよう注意する。 ○全体的な色→細かい部分の色の順でぬる。 ○色を重ねぬりする場合は必ず一度乾かしてからぬる。(ドライヤーを使用するとよい)		
まとめ	○片づけをする。 ○お互いの作品を発表し合い, よさを認め合う。				
評価	○石に描くという喜びを味わうことができているか。 ○石の特徴を生かした作品ができているか。				
発展	○実際に河川敷等に, 石を取りにいったからの創作活動とすれば, 身近な自然物への興味の高まりや喜びも増え, より効果的な活動となる。				

活動名						オリジナル缶バッジ					
概要		○台紙に、色鉛筆やマジックで文字や絵を描き、缶バッジマシーンで思い思いの作品をつくる。									
ねらい		○自然の家での思い出や、ふりかえりの活動として、作品づくりを行う。									
関連教科等		図画工作・理科・社会・総合									
指導形態		①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行う									
時期		通年		時間帯		日中		対象		幼児～	
場所		創作棟・他		人数		何人でも		所要時間		0.5～1時間	
準備物		施設で準備できるもの				団体・個人で準備するもの					
		缶バッジマシーン、色鉛筆、台紙 缶バッジパーツ				なし					
進め方・展開例											
内容						留意点					
活動前		○打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数、材料の数、活動の進め方				○職員からの指導が活動の説明のみの場合は、活動の進め方や安全面、片づけ等について十分確認する。					
活動の説明		○作成手順を理解する。 ○例となる作品を見てイメージをつくる。				○創作説明用のシートを使用する。 ○自然の家での活動を思い出し、印象に残った場面などを想起させる。					
展開		○手順に沿って、作品をつくる。 ①好きな台紙を選ぶ。 ②使う道具を準備する。（色鉛筆、マジック、缶バッジマシーン等） ③台紙に文字や絵を描き、作品を仕上げる。 ④パーツを缶バッジマシーンにセットし、プレスして作成する。				○自然の家での活動をふりかえり、感じたことや学んだことなどを文字や絵で表現するよう指導する。 ○パーツの上下を間違えないように注意する。					
まとめ		○片づけをする。 ○お互いの作品について発表し合い、よさを認め合う。									
評価		○自然の家での活動をふりかえる作品になっているか。									
発展		○研修の最初の活動として設定し、活動の目標などを記入して活動中に身につけることで、意識を高めることもできる。									

活動名		葉っぱでスタンプエコバッグ			
概要	○葉を観察し、作品のイメージをわかせて、その葉に絵の具で色をつけ、布にスタンプして思い思いの作品をつくる。				
ねらい	○自由な発想で思い思いに作品づくりを行うことによって想像力を養う。 ○写し出された葉の様子を楽しむことで、自然物に興味関心を抱くきっかけをつくる。 ○アクリル絵の具の取り扱いを学ぶ。				
関連教科等	図画工作・理科・生活・総合				
指導形態	①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行うことが可能				
時期	通年	時間帯	日中	対象	幼児～
場所	野外及び創作棟	人数	～80人／1部屋	所要時間	1～2時間 (落葉拾いや葉集めから始めるのがおすすめ)
準備物	施設で準備できるもの		団体・個人で準備するもの		
	エコバッグ(A4サイズ)、アクリル絵の具、筆、水入れ、紙皿、ドライヤー、新聞紙、ティッシュ、穴開け用の竹、木づち、ハサミ		汚れてもいい服(必要に応じて) 葉		
進め方・展開例					
内容			留意点		
活動前	○打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数、材料の数、活動の進め方			○職員からの指導が活動の説明のみの場合は、活動の進め方や安全面、片づけ等について十分確認する。	
活動の説明	(必要なだけ葉を集める) ○作成手順を理解する。 ・集めた葉を観察し、どんな作品にするのかイメージを持つ。 ・葉に色をつけ、布にこすりつける。(スタンプする。) ・ドライヤーで乾かす。 ・友達の作品を鑑賞する。			○作りながらイメージを広げていってもよい。 ○自然界には、様々な色や形の植物があることに目を向けさせる。 ○危険な動植物への注意を促す。(ウルシ、ハゼ、害虫、スズメバチ、マムシ等) ○自然保護の観点から葉っぱは必要以上に採取しないようにする。	
展開	○葉を集める活動(どんぐりの谷や池の周り等) ○作品をつくる活動 ①使う道具を準備する。(新聞紙、絵の具、筆、水入れ、紙皿、ドライヤー等) ②袋の内側に新聞紙をはさむ。 ③どんな作品にするのかイメージを広げる。 ④使う絵の具を必要な量だけ出し、葉に色をつける。(葉脈がある葉の裏に) ⑤絵具を塗った葉を布に置く。その上に新聞紙を置き、しっかり押しつける。 (必要な場合は、これを繰り返す) ⑥ドライヤーで乾かす。			○落ち葉拾いは自然遊びとつなげてよい。 ○絵の具を出し過ぎないように注意する。 ○アクリル絵の具は乾くと色が落ちないので、衣服につかないよう注意する。 ○色をつける際には、水は少な目がよい。 ○新聞紙上からしっかりとこする。 ○ドライヤーは各班1つ。交代で使う。 ○色を重ねぬりする場合は必ず一度乾かしてからぬる。(ドライヤーを使用するとよい) ○必要に応じて、名前や言葉などを書く。	
まとめ	○片づけをする。 ○お互いの作品を発表し合い、よさを認め合う。				
評価	○想像力をはたらかせて、自由に楽しみながら作品をつくることができたか。 ○葉っぱの形や葉脈などにおもしろさや不思議さを感じることができたか。				
発展	○自然遊びで使ったり集めたりした落ち葉を活用すれば、身近な自然物への興味の高まりや喜びも増え、より効果的な活動となる。				